

件名：令和6年能登半島地震に関する志賀原子力発電所の点検状況等に係る面談

日時：令和6年1月5日（金）18：05～19：35

場所：原子力規制庁3階会議スペース

出席者：

原子力規制庁長官官房総務課 事故対処室

山口室長、木原室長補佐

原子力規制部検査グループ 実用炉監視部門（テレビ会議システムによる出席）

志賀上級原子炉解析専門官、小野上級原子炉解析専門官、宮坂原子力運転検査官、

井上係長、高木原子力規制専門員

北陸電力株式会社（以下、「北陸電力」という）

東京支社 副支社長 他2名

要旨：

○北陸電力から志賀原子力発電所における令和6年能登半島地震に対する施設の点検状況等に関して、資料に基づき説明があった。

○原子力規制庁から2号機主変圧器の油漏えいに係る回収量と当初の漏えい量想定が異なっている要因、その他変圧器の点検状況、点検中としている設備の復旧見込みについて確認を行った。

○北陸電力から資料を基に以下の回答があった。

- ・2号機主変圧器の油漏えいの回収量については、雨水等の水分も含めて24,600リットル（油は19,800リットル）の回収を完了した。当初は同変圧器のコンサベータ（油劣化防止装置）の容量から3,500リットルと漏えい量を想定していたが、漏えい箇所の油面位置の高さと変圧器の本体及び冷却器配管の位置からそれらの内部にある絶縁油も漏えいしたものと考え、訂正した。

- ・その他変圧器の点検については、1号機主変圧器と1号機所内変圧器において、放圧板が動作していたことを確認した。

- ・点検中の2号機非常用ディーゼル発電機（C）については、年度内には復旧するよう優先して対応する予定。

○原子力規制庁から北陸電力に対し、これまでの施設点検等の結果、損傷や異常が確認された設備等の復旧の見込みやその復旧期間における電源確保に係る対応戦略を示すよう指摘した。

○北陸電力から電源確保に係る戦略を整理し、今後、提示する旨の回答があった。

配付資料：

○令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第5報）